

		午前	午後		予定・備考
4月1日	月				
4月2日	火				
4月3日	水		休診	11:30～	小久保保育園健診
4月4日	木				
4月5日	金				清明
4月6日	土		～15時	19:00～	休日夜間急病診療所当番（根城）
4月7日	日	休診	休診		
4月8日	月				
4月9日	火				
4月10日	水		休診	11:30～	白銀台保育園健診
4月11日	木				
4月12日	金				
4月13日	土		～15時		
4月14日	日	休診	休診		
4月15日	月			19:00～	休日夜間急病診療所当番（根城）
4月16日	火			13:00～	青潮小健診
4月17日	水		休診		
4月18日	木			13:00～	青潮小健診
4月19日	金				
4月20日	土		～15時	17:00～	青森県タバコ問題懇談会（青森）
4月21日	日	休診	休診		うぐいすマラソン
4月22日	月				
4月23日	火			13:00～	青潮小健診 ／八戸市小児科医会
4月24日	水		休診	13:00～	青潮小健診
4月25日	木				
4月26日	金			19:00～	休日夜間急病診療所当番（根城）
4月27日	土		～15時		
4月28日	日	休診	休診		八戸市民フィル定期演奏会
4月29日	月	休診	休診		昭和の日
4月30日	火				
5月1日	水		休診		



● 院内版感染症情報 ～2013年第14週（04/01～04/07）

	2012-2013年	第49	50	51	52	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14週
インフルエンザ		0	0	0	0	1	3	7	24	21	14	3	4	3	3	0	0	2	1
咽頭結膜熱		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎		7	3	1	3	0	1	5	6	11	10	5	5	8	9	9	4	4	3
水痘		7	4	7	5	3	2	1	1	0	0	1	4	2	0	0	2	0	1
手足口病		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹		0	3	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
百日咳		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

今シーズンのインフルエンザは1月の最終週にピークとなり、2月下旬には下火となりました。3月末でもまだ一部の園などで残っているところはあるようですが、ほぼ終息した状況にあります。今年の流行はマスコミが伝えたのとは異なり「大人が主体で、子どもは学校での流行も小規模で短期間に沈静化した」というのが全国各地で共通していたようです。まだ春先にかけてB型などの流行があるかもしれません。

2月中旬以降は、ロタウイルスを中心としたウイルス性胃腸炎が流行しています。例年、厳冬期から春にかけて流行しますのでもう少し続く見込みです。

その他には、水痘が散見される程度で、咳が出るタイプの風邪が受診者の中では一番多くなってきました。

● ヒブ Hib・肺炎球菌・子宮頸がん予防HPVワクチンが定期接種に

国会での議決が3月末までずれ込んでしまいましたが、これまでお伝えした通

り、3種類のワクチンが任意接種から定期接種になりました。ヒブの1期追加までの間隔が7～13ヶ月になるなどの細かい変更点がありますが、基本的にはこれまでと大きな違いはありません。HPVワクチンの対象者が中1～高1だったものが小6から可能になりますが、中1からの接種開始で構わないと思います。ヒブと肺炎球菌は生後2ヶ月～5歳の誕生日前までです。定期接種になる一番の違いは、副反応（紛れ込み事故を含む）の際の認定や補償が国の責任となり手厚くなることです。

● その他の予防接種の変更点 BCGは1歳前まで MR3・4期は終了

BCG 生後3ヶ月～1歳前（誕生日の前日まで）に期間が延長されます。
MR（麻疹・風疹）ワクチンは、中1・高3に5年間実施していた3・4期が終了しました。1歳と入学前の1・2期は従来通りです。現在、首都圏の成人男性を中心に風疹の流行が拡大しており、先天性風疹症候群も増加しています。青森県には流行の波は押し寄せてませんが、それだけ感染する可能性のある人が多く残っていると言うこともできます。行政の補助がないので有料になりますが、MR（または風疹ワクチン）を2回接種していない23歳以上の世代の方には男女とも接種をお勧めします。

● 福島県甲状腺検査、新生児前診断、インフルエンザ検査の考え方

この3つの問題について、感度、特異度、有病率という観点から、同じ考え方で読み解くことができます。式とグラフを使ってシミュレーションしてみたのですが、長くなるのでここでは要点のみ記します。興味のある方はブログをご覧ください。

・流行時はインフルエンザ検査陰性でもインフルエンザである可能性が高い<式とグラフで説明します> 2013年02月12日

・インフルエンザ検査：陽性的中率は特異度が高ければ十分に高い<グラフ> 2013年02月12日

→ 流行時に検査陽性ならほぼ診断は確定するが、検査陰性の場合、流行時にはインフルエンザの可能性が高く、流行が下火ならインフルエンザではない可能性が高い。有病率によって陰性的中率（検査陰性の時に本当にインフルエンザじゃない割合）は大きく変化する。「検査陰性だからインフルエンザじゃない」は間違い。

・新しい出生前診断の陽性的中率は予想外に低い 2013年02月12日

・新しい母体血出生前診断の陽性反応的中率（グラフ） 2013年03月19日

→ 35歳でダウン症の有病率が1/300とすると陽性的中率（検査陽性の時に本当にその病気である割合）は62%、40歳で有病率が1/100でも83%であり、偽陽性がそれぞれ1/3、1/6も出てしまう。だから検査の対象はハイリスクの妊婦に限定される。

・福島の甲状腺がん検査の患者数は？ 感度・特異度により3人？12人？（応用できる一般式付き） 2013年03月18日

・福島の甲状腺がん検査の患者数の推計式を感度・特異度でグラフ化してみました 2013年04月04日

・福島県外3市と福島県内の甲状腺検査結果の比較 考えられる推論2つはいずれも不可解 2013年04月03日

→ 平成23年度に検査した3万8千人のうち、3人が甲状腺がん（摘出手術で診断確定）、7人が穿刺吸引細胞診でがんと診断（未確定）という結果が発表になっています。専門家は原発事故の影響ではなく早期に発見されたものと説明していますが、有病年数を7～10年と仮定してその年数分を一気に発見したとしても、発生率は100万人あたり約10-30人となり、従来言われていた1-2人の10-15倍も多い数字になっています。一方、比較のために県外3市（弘前・甲府・長崎）で実施された超音波検査でも福島県内と同程度の頻度で嚢胞や結節が発見されており、だから「福島県内も安心」なんだと専門家は説明していますが、その矛盾についても考えてみました。

● 原発・医療・メディア問題についての新しい書籍 待合室に

『政府は必ず嘘をつく アメリカの失われた10年が私たちに警告すること』堤 未果★
『原発ゼロ 私たちの選択』安齋育郎・飯田哲也・大島堅一・長谷川羽衣子
『NO NUKES 2012 ぼくらの未来ガイドブック』坂本龍一+編纂チーム
『鎌仲監督 vs. 福島大学1年生 3.11を学ぶ若者たちへ』鎌仲ひとみ・中里見博
『医療防衛 なぜ日本医師会は闘うのか』今村聡・海堂尊 ★
『タバコとわたしたち』大野竜三 ★

● 4月～5月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

4月～5月の臨時休診の予定はありません。GWも暦通りの診療になります。急病診療所当番は4月6日(土) 夜、15日(月) 夜、26日(金) 夜、5月6日(祝) 昼の予定です。育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険・予約制）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。♡ 当院は「敷地内禁煙」です

発行 2013年4月10日 通巻第162号 〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26
TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197 <http://www.kuba.gr.jp/>